

## 認知症対応力向上研修後の取り組み状況の調査

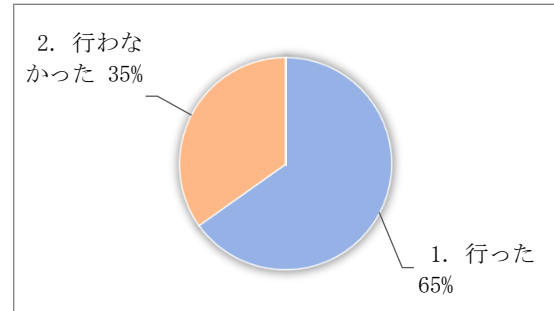
[平成30年2月17(土)・18(日)・24(土)の研修後(9か月目)の習得知識の実践活用・個人や病棟の変化に着目した調査]

\*対象者: 修了証発行者 64名 (回収率70%)

### I. 同じ医療機関の看護職に対しての伝達講習について

問1. 研修後、あなたは、自施設職員への伝達講習を行いましたか。

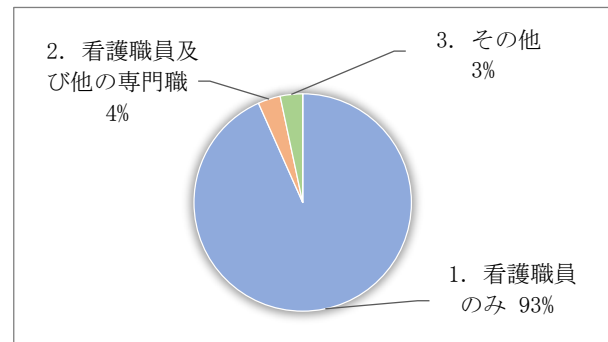
回答	人数
1. 行った	30
2. 行わなかった	16
3. 無回答	0
合計	46



問2. 問1. で「1. 行った」と答えた方にお尋ねします。

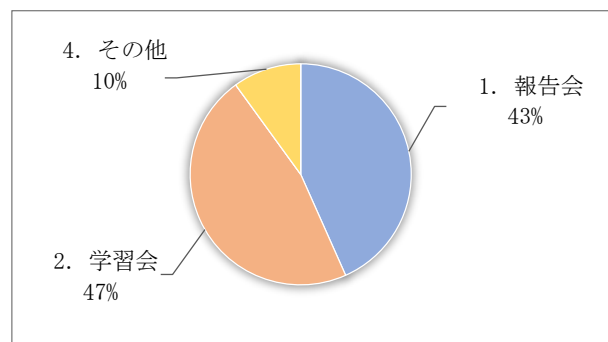
#### ①伝達講習を行った対象

回答	人数
1. 看護職員のみ	28
2. 看護職員及び他の専門職	1
3. その他	1
4. 無回答	0
合計	30



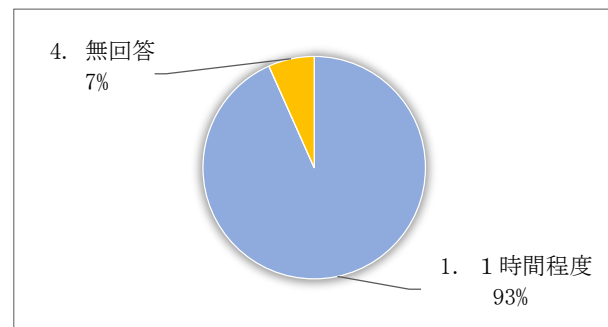
#### ②伝達方法

回答	人数
1. 報告会	13
2. 学習会	14
3. 事例検討会	0
4. その他	3
5. 無回答	0
合計	30



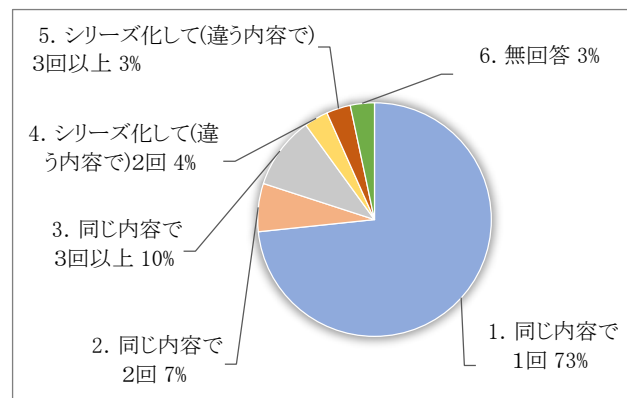
#### ③伝達時間

回答	人数
1. 1時間程度	28
2. 2時間程度	0
3. 3時間以上	0
4. 無回答	2
合計	30



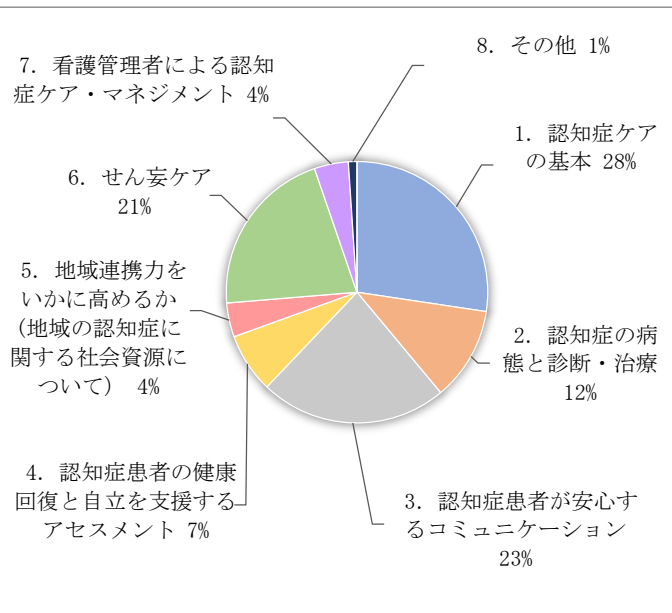
#### ④伝達回数

回答	人数
1. 同じ内容で1回	22
2. 同じ内容で2回	2
3. 同じ内容で3回以上	3
4. シリーズ化して(違う内容で)2回	1
5. シリーズ化して(違う内容で)3回以上	1
6. 無回答	1
合計	30



## ⑤伝達内容 \*複数回答可

回 答	人数
1. 認知症ケアの基本	26
2. 認知症の病態と診断・治療	11
3. 認知症患者が安心するコミュニケーション	22
4. 認知症患者の健康回復と自立を支援するアセスメント	7
5. 地域連携力をいかに高めるか(地域の認知症に関する社会資源について)	4
6. せん妄ケア	20
7. 看護管理者による認知症ケア・マネジメント	4
8. その他	1
9. 無回答	0
合 計	95



## ⑥伝達してみたの課題と感想

## &lt;課題&gt;

- ・伝達する事の難しさ
- ・自己のスキルアップ
- ・課題の明確化

## &lt;感想その他&gt;

- ・職員の意識改善のためには伝達講習の時間、回数を多くした方がよかった。他職種にも伝達できるとよい
- ・あるべき姿になるように考える良い機会となった
- ・理想と現実の違い。現実の起きている対応の困難さに気付いた
- ・日常の看護の場面での指導が大切
- ・見当識障害に対してナースコールの表示方法に工夫ができるようになった
- ・スタッフの認知症患者の接し方が変わった  
(例)見えるところに張り紙、すぐに拘束ではなく他の方法を考えるなど
- ・認知症患者に対するコミュニケーション。離床時行動、目線に変化があった
- ・対応や声掛け等が少し変わっていくと思う。スタッフ間で多く話し合いの場を持ち良い方向に向かうとよい
- ・全員職員研修で半年間、認知症ケアをテーマに取り組み年末に発表会をした。色々な取り組みがあり他部署の参考になった
- ・職員と患者役で劇を行い内的思考を伝えた。参加者より患者自身が多くのストレスを抱えて生活している事、職員の不適切なケアがBPSDを引き起こす等を学んでもらった。声掛けや患者の思いを視覚的に伝える事は有効であった

問3. 問1. で、「2. 行わなかった」と答えた方にお尋ねします。

行わなかった理由を教えてください。

- ・アンケート回収時点では行ってなく、今年度中に行う予定
- ・施設内で計画的に認知症の研修が行われている為
- ・その他
  - 多忙のため
  - 企画の話し合いが出来ていない
  - 自分ではなく他の人にやってもらった
  - 病棟内でカンファ時に分けて必要な項目のみ行った
  - 職場移動に伴いできなかった
  - 自分自身が知識不足

ケア加算2人導入にて混乱しているスタッフが多いため。スタッフの加算時に対応を指導しアンケートを行いわからない事等を調査した。今後、スタッフの課題としている点の指導と事例検討会を検討していく

## II. 認知症の方への看護について

問1. 管理者・指導者として現在、最も重要と考えている認知症患者の看護は何ですか？

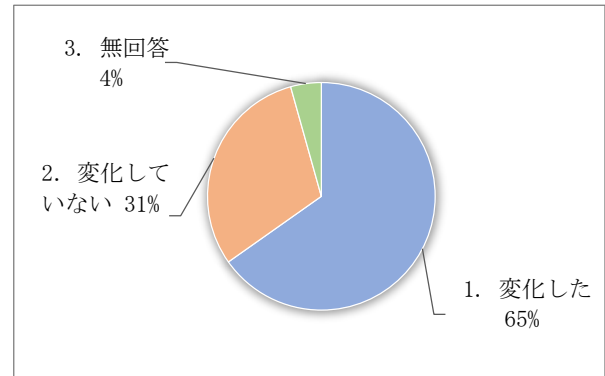
- ・患者の尊厳・安心・安楽な環境の提供
- ・アセスメントの重要性

問2. 研修の前後で、身体拘束について変化したことがありますか。

いずれか一つに○をつけ、その具体的な内容あるいは理由を記してください。

回 答	人数
1. 変化した	30
2. 変化していない	14
3. 無回答	2
合 計	46

- 変化した 具体的内容を記入してください
  - ・カンファレンスの開催
  - ・拘束に対する意識と行動の変容
  - ・アセスメントする
- 変化していない 理由がわかれば記入してください
  - ・拘束はもとよりしていない
  - ・その他、マンパワー不足や組織的な取り組みがない



## III. 管理者・指導者としての取り組みについて

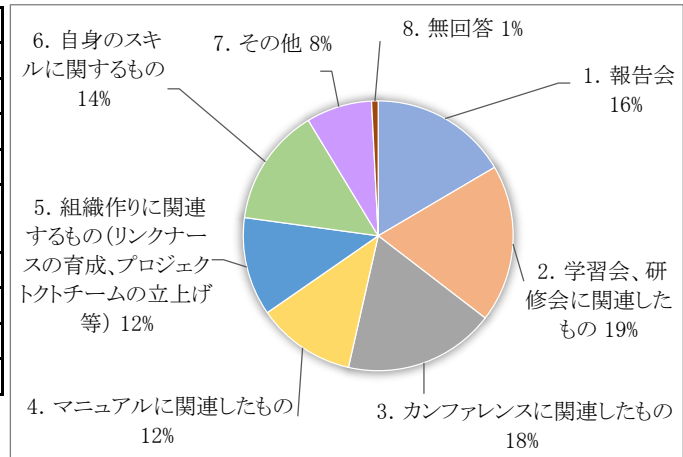
問1. 認知症ケアに関して管理者・指導者としてどのような取り組みをしましたか。

取り組んだものに○をつけてください。\*複数回答可。

また、各項目の具体的な方法と内容等も併せてご記入下さい。

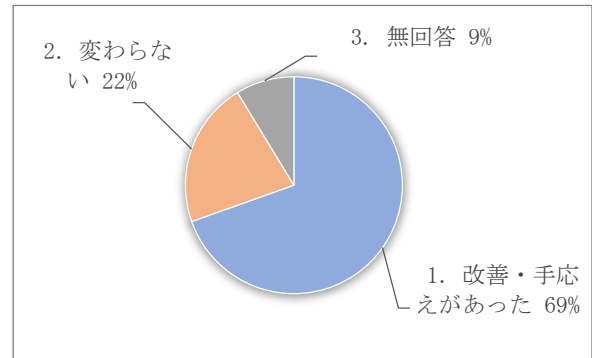
回 答	人数
1. 報告会	21
2. 学習会、研修会に関連したもの	24
3. カンファレンスに関連したもの	23
4. マニュアルに関連したもの	15
5. 組織作りに関連するもの(リンクナースの育成、プロジェクトチームの立上げ等)	15
6. 自身のスキルに関するもの	18
7. その他	10
8. 無回答	1
合 計	127

- 報告会
  - ・伝達講習
  - ・報告会や回覧
  - ・その他
 現状や取り組みなど近年の動向、いかに認知症対応が必要かを伝える  
 師長、主任会で行う  
 全職員  
 パワポの作成  
 病棟で行なった  
 棟内会議時に全体報告を行い今後の対応を考えるように話し合いは行った  
 事例発表として年2回院内で発表している  
 1月に看護総会でを行う予定
- 学習会、研修会に関連したもの
  - ・各施設にあった形で行っている
- カンファレンスに関連したもの
  - ・カンファレンスの活用が出来ている
- マニュアルに関連したもの
  - ・マニュアルの作成と改善に取り組んでいる
- 組織作りに関連するもの(リンクナースの育成、プロジェクトチームの立上げ等)
  - ・組織づくりに取り組もうとしている
- 自身のスキルに関するもの
  - ・自身のスキルアップに積極的に取り組むようになっている
- その他
  - ・院内デイを5月に開催できた。退院後訪問指導での認知症ケアの課題について分析し病院が参加する学会で発表
  - ・病棟内でMMS Eをみんながとっていけるようにした。ケア加算への取り組み
  - ・県内で行われる認知症ケアの研修に参加している



問2. 取り組みの結果、何らかの改善や手応えはありましたか。  
いずれか一つに○をつけ、その具体的な内容あるいは要因を記してください。

回 答	人数
1. 改善・手応えがあった	32
2. 変わらない	10
3. 無回答	4
合 計	46



1. 改善・手応えがあった具体的な内容を記入してください

- ・身体拘束に関して、拘束解除に向けての意識変容、カンファレンスの開催をおこなうようになった
- ・スタッフ間の意見交換やチームで活動に取り組む姿勢などが見られるようになっている

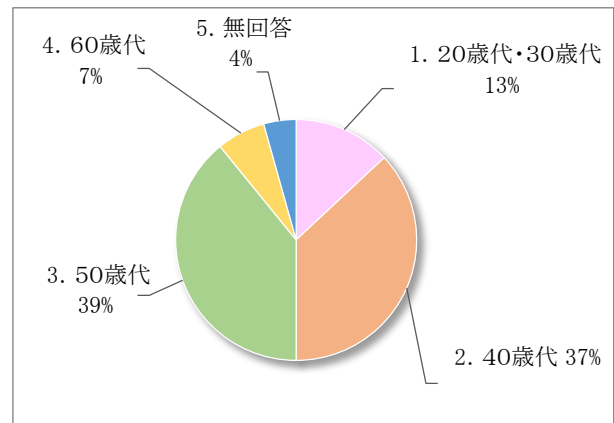
2. 変わらない その要因は何と考えますか

- ・認知症の理解が進まない、浸透できない、時間がかかるなど

#### IV. 最後に、あなたご自身についてうかがいます。

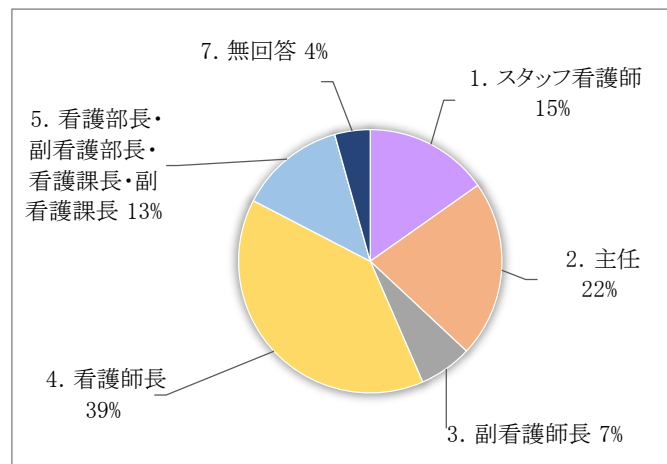
問1. 年代

回 答	人数
1. 20歳代・30歳代	6
2. 40歳代	17
3. 50歳代	18
4. 60歳代	3
5. 無回答	2
合 計	46



問2. 職位

回 答	人数
1. スタッフ看護師	7
2. 主任	10
3. 副看護師長	3
4. 看護師長	18
5. 看護部長・副看護部長・看護課長・副看護課長	6
6. その他	0
7. 無回答	2
合 計	46



問3. 所属している病院は、現在、認知症ケア加算を算定していますか

回 答	人数
1. 算定している	31
2. 算定していない	12
3. わからない	0
8. 無回答	3
合 計	46

